

堀田 聰子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授）

京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、オランダ・社会文化計画局研究員 兼 ユトレヒト大学社会行動科学部訪問教授等を経て2017年4月より現職（医学部・ウェルビーイングリサーチセンター兼担、認知症未来共創ハブ代表）。博士（国際公共政策）。

社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会（厚生労働省）、政策評価審議会、基礎自治体による行政基盤の構築に関する研究会（総務省）、地域包括ケア研究会、地域共生社会研究会等において委員を務めるほか、医療介護福祉政策研究フォーラム理事・地域包括ケアイノベーションフォーラム事務局・人とまちづくり研究所代表理事等として、地域包括ケア・地域共生社会、compassionate community、dementia friendly community 等を手がかりに、より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援及び加速に取り組む。中学生の頃より、おもに障害者の自立生活の介助を継続。訪問介護員2級／メンタルケアのスペシャリスト。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2015 リーダー部門入賞。

主たる共著に『ヘルパーの能力開発と雇用管理』勁草書房（2006）、単著に『オランダの地域包括ケアーケア提供体制の充実と担い手確保に向けて』労働政策研究報告書 167, 労働政策研究・研修機構（2014）、「介護保険事業所（施設系）における介護職のストレス軽減と雇用管理」『季刊社会保障研究』（2010）（第12回労働関係論文優秀賞）等。

渡辺 俊介（日本健康会議事務局長）

1944年生

ジャーナリスト（元日本経済新聞論説委員）

国際医療福祉大学大学院教授、東京女子医科大学客員教授

政府の社会保障制度、医療・介護行政関係の委員等を数多く歴任